



# 美味しいお話

平成29年 10月

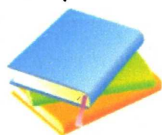


本の中に出てくる食べ物や食材が、10/19(木)の給食に登場します。

10/19の献立

秋のきのこごはん、  
五目卵焼き、ゆず大根、  
すまし汁、牛乳

紹介した本は  
学校図書館で展示中。  
借りられます！



秋のきのこごはん → きのこと



## 『少年少女古典文学館 15 能・狂言』

別役実・谷川俊太郎/著 講談社

この書名を見て「きのことどのような関係があるのだろう？」と思われた方が多いかと思います。実は、「茸(くさびら)」（大蔵流では「菌）」という作品が狂言にはあるのです。

「狂言って、何だか古めかしくて面白くなさそう」と思っている方にも「茸」は、鑑賞していて思わず笑ってしまう、そして茸たちがユーモラスで「可愛い！」と感じてしまう、そんな作品です。

ある屋敷にきのこが生え、いくら採っても生えてくる。これは困った、ということで、屋敷の主人が、法力の強い山伏に<sup>やまぶし</sup>祈禱<sup>きとう</sup>をしてもらおうとします。山伏は早速祈り始めるのですが、祈れば祈るほど、人間ほどの大きさのきのこが生えてきてしまい…という内容です。

山伏が祈っている間に生えてくるきのこの種類は様々です。椎茸、しめじ、ヒメタケ、松茸…と、まさに秋に食べたいきのこばかりなのです。

『少年少女古典文学館 15 能・狂言』には、この「茸」のシナリオが載っていて、読んで楽しむことができます。また、「茸」の内容を書く際に『一冊でわかる狂言ガイド』（成美堂出版）を参考にしました。どちらも学校図書館にあります。

芸術の秋です。日本文化でもある  
狂言を楽しんでみてはいかがでしょうか？



## まだまだ、きのこ！

きのこに関する本を探すと、様々な本が見つかります。

『ときめく微生物図鑑』（山と溪谷社）では、きのこも菌類、りっぱな微生物の仲間であることを実感出来る本です。写真も綺麗で、つつい魅入ってしまいます。

近年、戦艦や刀を擬人化してゲーム等で楽しむ、ということが見受けられますが、キノコも擬人化してしまった本が『キノコ擬人化図鑑』（双葉社）です。擬人化として楽しむだけでなく、「キノコ基礎解説」や学名、毒の有無も載っていて、情報量が豊富です。

